

## 研修レポート

名古屋第一赤十字病院 研修医 2 年目

研修期間 2018 年 9 月 3 日～9 月 30 日

このたび、新城市民病院にて 4 週間の地域医療研修をさせていただきました。短い間ではありましたが、病院スタッフの方々、外部研修先の方々には大変お世話になりました。4 週間の研修を通じて学んだことを振り返りたいと思います。

はじめに印象に残ったことは、みなさんがあいさつをする環境であるということです。大病院ではスタッフ数が多いため知らない方も多く、どうしてもあいさつは少なくなります。新城市民病院ではあいさつの習慣が浸透しており、あいさつをきっかけに会話が生まれ自然と知り合いになっていけるような良い雰囲気がありました。

総合診療科では初診外来に来られた患者さんの問診を担当しました。総合診療科という名の通り様々な主訴の方が来院され、投薬を必要としない方から即日入院・治療という方まで様々です。診察を通じて問診と身体診察の重要性をより理解することができました。また毎日朝に勉強会、夕に振り返り、月 1 回 Up to date 勉強会が開催されており、個々で診療を行うのではなく、スタッフ全員で診療を行い、知識を共有し高めあっていこうという意識が感じられました。自分だけでは気づけないことも多々あるので、このような環境はとても大切であると思います。

入院患者さんも担当させていただくなかで、考えさせられることもありました。それは医学的に最適な行為が、目の前にいる患者さんに対しても最適とは限らないということです。患者さんには一人ひとりの背景があり、考え方も様々です。医者は、どうしても医学的に最も良い選択が患者さんにとっても最善と考えてしまいがちです。そのギャップを埋めるためには、患者さん、患者家族、医療者側の情報共有、コミュニケーションが大切であると感じました。今後は主治医として診察を行うことも増えていきます。その際に本研修で感じたことを活かすことができればと思います。

また、地域医療の観点からも学ぶことができました。私が普段過ごしている地域は立地に恵まれており、医療行為を必要としたときに数多くの選択肢があります。しかし、それは非常に恵まれているケースであって、新城市をはじめとして、限りある選択肢のなかで最善な診療を行わなければならない地域は沢山あります。どのように工夫して過ごしやすい社会を作り上げてゆくべきか、院内・院外実習を通して学ぶことができました。

医師として職務に従事する過程において、自分が今までに知り得たことが全てではなく、知らないことの方が圧倒的に多いと思います。思考に柔軟性を持ち、先入観を持たずに日々の診療に励むことが大切であると感じました。

この 4 週間で学んだこと、感じたことを忘れず、これからの職務に活かしていきたいと思えます。このたびはありがとうございました。